JF大分
水産おおいた
2025年08月
180号
発行元
大分県漁協
http://www.jf-oita.or.jp/

女性部 青年部 令和7年度通常総会開催

県漁協の女性部（岡崎都部長）は7月3日に通常総会を開催した。一方、青年部（山田和幸部長）は7月12日、福岡県漁協青壮年協議会設立60周年記念大会開催のため書面により通常総会を開催した。

ともに議案は6年度の事業報告及び収支決算、7年度の事業計画及び収支予算並びに会費の額、徴収方法及び時期であり、いずれも承認された。

なお、女性部では役員改選が行われ、部長に岡崎都氏（中津支部）、副部長に紀野道子氏（佐賀関支部）がそれぞれ再任された。

新役員

大分県漁協女性部の新役員

役職	氏名	所属支部
部長	岡崎都	中津
副部長	紀野道子	佐賀関
委員	浜田小百合	杵築
委員	成松恵美子	鶴見
監事	豊永孝子	宇佐
監事	高瀬亮子	下入津

大分県漁業公社通常総会
新理事長に大塚猛氏（県審議監）を選出

公益社団法人大分県漁業公社は6月26日、水産会館で第15回通常総会を開催し、6年度の事業実績・収支決算、7年度の事業計画・収支予算等を承認した。6年度決算は、アユの種苗生産が過去最高収益であったものの、冬の水温低下の影響での燃料費がかさむなど厳しい生産環境であった結果、863万円余の赤字となった。

また、人事異動等に伴う新しい理事長に県農林水産部審議監の大塚猛氏が、副理事長には中根組合長と国東市の小川浩美副市長が選出された。

大塚理事長

大分県水産多面的機能発揮対策地域協議会　通常総会

大分県水産多面的機能発揮対策地域協議会（会長：高田淳史県水産振興課長）は、7月10日に水産会館において令和7年度の通常総会を開催した。

6年度の事業実績及び収支決算案が承認され、その後、各活動組織の実績等について、資料により概要説明が行われた。

また、昨年度姫島村において実施された藻場調査の結果が報告された。それによるとアイゴによるクロメの食害が観察され、カゴ内のクロメは捕食されないことや水温が26～29℃で活発に活動（クロメを捕食）すること等が分かり、これを受けて現在、刺し網等によるアイゴの駆除が実施されているとのこと。

大分県漁船リース協会 理事会および定時社員総会

一般社団法人大分県漁船リース協会（会長：中根組合長）は、7月14日、水産会館で令和7年度第1回理事会及び第2回理事会、定時社員総会を開催した。

6年度の事業報告・収支決算、7年度の事業計画・収支予算等を承認した。

任期満了に伴う役員の改選では、会長に中根組合長（再任）、理事に鳴海（上津入）、大屋（新任）、監事には三宅監事（再任）が選任され、続いて開催された第2回理事会で、中根組合長が会長に選出された。

大分県水産養殖協議会 定期総会

大分県水産養殖協議会（渡邊満晴会長）は7月16日、県漁協佐伯支店で定期総会を開催し、6年度の事業実績・決算、7年度の事業・収支予算等を承認した。

退任等による専務理事の大屋が理事に、県漁協佐伯支店の山本裕一郎氏（監事）が選任された。

魚類養殖講習会
魚病被害を減らすために

7月16日の大分県水産養殖協議会の総会前に、魚類養殖講習会が開催され、県水産養殖研究部の吉井主任研究員が「水産用抗菌剤の効果的な使用方法」について、河東主任研究員が「国立水産技術研究所の感染症拡大防ぐ演技」について講演した。

ウイルス性疾病のエリスロマイシン耐性菌を防ぐ方法とイリドウイルスを例にした感染症の手法について両名からご教示いただいた。

海の事故ゼロ啓発活動
海上保安部と関係団体

海上保安部は、7月16日、海難事故の注意喚起のため、JR大分駅前で啓発活動を行った。これは「海の事故ゼロキャンペーン」（7/16～31）に合わせ、県漁協や県旅客船協会などから20名ほどが参加し、通勤する人にチラシなど計200部を配布した。

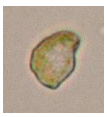
漁協からは中根組合長、新川参事、本店職員などが参加した。

赤潮に注意を！

県農林水産研究指導センター水産研究部は、6月27日に赤潮情報を、7月10日に緊急赤潮情報を発表し、魚介類の管理に十分注意するよう呼び掛けている。

【赤潮情報】
発生場所　　佐伯湾（鶴見ポンツーン）
プランクトン種類　ノクチルカ・シンチランス（夜光虫）
最高細胞密度　　925細胞／ml
発生期間　　令和7年6月27日～
・ノクチルカ・シンチランスの注意点
　魚介類に直接、斃死を引き起こす有害なプランクトンではないが、死骸からアンモニアがでるため濃密度域では水質が悪化し、魚介類を斃死させることがある。

【緊急赤潮情報】
発生場所　　猪串湾（インターパーク近く）
プランクトン種類　ヘテロシグマ・アカシオ
最高細胞密度　　2,624細胞／ml
発生期間　　令和7年7月8日～
・ヘテロシグマ・アカシオの注意点
　警戒密度：50,000細胞／ml
　注意密度：5,000細胞／ml
　魚介類に斃死を及ぼす有害な赤潮プランクトン、特にシマアジに有害
　鉛直運動をするため、午前中に海色が良くても午後から着色し被害を発生することがある
　パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖・蓄養中の魚介類に被害を及ぼすことがある



○赤潮発生場所での対応
- 投餌は控える
- 赤潮海域に魚介類を入れない
- 赤潮海域から魚介類を避難する
- 蓄養は控える

（出典：水産研究部HP　https://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/）

編集後記

小学生図書委員になり（50年ほど前）、その時新聞を作ったことがあり、学級新聞（わからない人はお父さん、お母さんに聞いてください）。時代は過ぎ平成8年、全国でアコヤガイが紅の大量斃死があった。貝柱が斃死ぬとのうわさが蒲江地区担当普及員だった。当時、原因究明や対策、原因説明や環境問題、現場混乱などの様々な情報が流布し、小職は生産者や試験場職員から全国の産地や研究機関に向き合うことを入手、「珠新聞」として付こした。第8号まで全業者に送信した。記憶で、原因わかずず環境説、感染症説などが流れ、転勤になったと行った。

そのころ以来の定期的な情報誌（新聞）作成。駄文、拙文ご容赦ください。

さて、前文掲載はお無理ですが、わかりやすく端的に、をモットーに頑張ります（…続くんかい？）。

よろしくお願いします（大屋）。